



自分の声でインターネットにアクセスする「Vポータル」。簡単に言えば、0570-0033-03に電話をかけて、インターネット上にある音声ファイルを、「はい」や「いいえ」という声で操作しながら楽しむというものだ。そして、この新しいメディアVポータルは、今まさにインターネット黎明期のような様相を呈し、さまざまなVポータル専用コンテンツが生まれようとしているのだ。ただし、そこは新しいメディア。まだ、誰もどのようなコンテンツがキラコンコンテンツになるのか、正解をつかめないでいる混沌とした状況だ。ここVポータル企画道場では、そのようなカオスの世界にあえて身を投じる、勇気ある「道場破りたち」を紹介していく。

Vポータル企画道場!

まずはバスツアーの試供品を作る

今回登場する「道場破り」は「株式会社はとバス」。そう、あの東京観光案内をしてくれる黄色いバスの会社だ。同社が提供するコンテンツ「はとバス東京案内」は実際の「東京半日観光」をベースとしたもので、皇居、浅草、東京タワーを巡る「バスガイド」をそのまま音声にしたものだ。

「このVポータルコンテンツを制作する際に工夫したことは」と、コンテンツ制作担当の小野恵子さんに聞くと、「リカちゃん電話」にしていることでしょうか」と話してくれた。Vポータルには「ユーザーが自分の声で操作する」という特徴があるのだが、このコンテンツでは極力その音声認識機能は使わないようにしている。「音声認識がうまくいかなくて、お客様が何度もやり直さなければいけないというリスクを背負うよりも、ただ聞いていれば楽しめるものにしたかったし、観光案内のバスガイドはもともと聞いて楽しんでもらうものですから」とは小野さん。Vポータルの機能をあえて使わないことで、コンテンツ自身の魅力を十分に引き出す戦略だ。

今月の道場破り!

【株式会社はとバス】

今回の道場破りは、黄色いバスでおなじみの「はとバス」。同社の武器は、「声のプロ」バスガイドさんを多数抱えていることだ。



業務推進システム担当
小野恵子さん
ホームページ制作など、「はとバス」のデジタル部分をすべて受け持つ小野さん。「はとバス」のVポータルコンテンツは彼女がVポータルエディターを使って制作しているのだ。

広報担当
小林未樹さん
「はとバス」Vポータルコンテンツの広報担当の小林さん。バスガイドたちのお姉さんの存在でもある。障害者の方に向けたVポータルコンテンツの展開を現在思案中。

バスガイド
町田寿美子さん
おもに、ツアー案内の音声を担当している町田ガイド。元気な声で、皇居、浅草、東京タワーといった東京の名所を案内してくれる。

バスガイド
浅賀理江さん
おもに、操作の説明部分の音声を担当している浅賀ガイド。落ち着いた声で、しっかりVポータルの使い方を教えてくれるぞ。

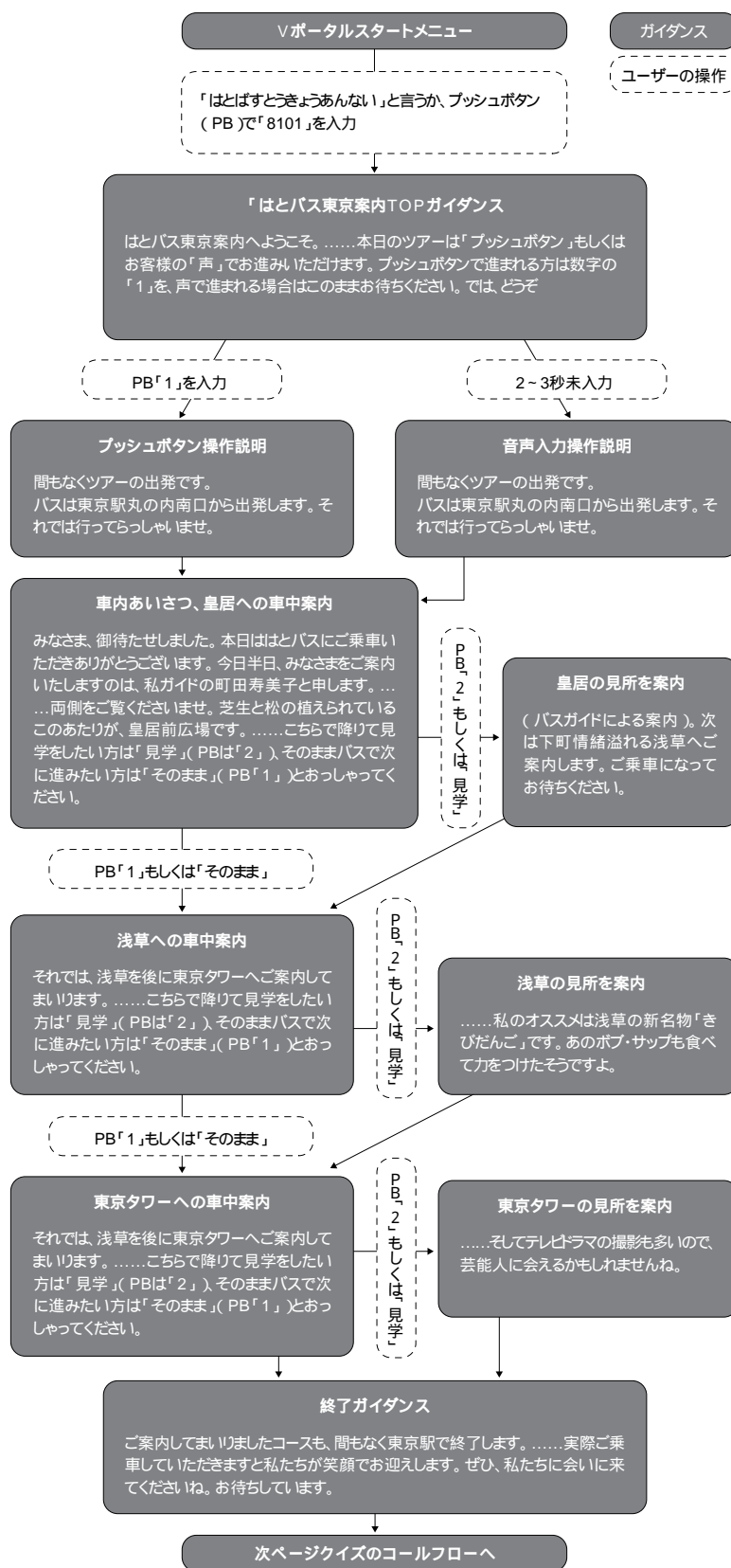
バスガイドのノウハウをフル活用

「はとバス東京案内」での音声を担当しているのは現役のバスガイドさんだ。電話口からは「右手に見えますのは～」という本格的な“ガイド”が聞こえてくるが、これこそが同社がVポータルに殴り込む際の最大の武器になったと言う。

前出の小野さんは、「わが社にはバスガイドというある意味で音声のプロがいて、これまで多くのガイドをやってきました。それは、すでに社内に音声コンテンツを多く抱えているようなものです。だから、音声でコンテンツを作るときにどんなものを作ろうかなどと悩むことはありませんでした。ただ、いつものバスガイドの声を、Vポータル用に変換すればいいだけでしたから」と言う。実際、はとバスでは、東京都内だけでなく、さまざまな観光地のバスガイドのマニュアルがある。もちろん、そのマニュアルをベースにバスガイドさんたちがそれぞれアレンジするので、コンテンツの数をざっと計算すると「観光地の数×バスガイドさんの数」となり、ほぼ無限と言ってもいい数になるのだ。今後コンテンツを増やしていく際には、たとえば神奈川編、京都編というふうに、いま実際に行われているバスガイドを追加すればいいだけだ。また、Vポータルコンテンツの企画に、バスガイドさんも加わっていることで、「実際の街の音を流してはどうだろう」「泣ける話、笑える話など気分に合わせて選べる方式はどうか」「季節に合わせて、たとえば桜並木の実況中継をしたら」など、バスガイドさんの立場から音声コンテンツをおもしろくするためのアイデアが直接聞けるのも強みだ。「実際にガイドたちは日々の業務の中でいろいろな体験をしていて、いろいろな景色を見ている。そういう実体験を200人以上のガイドがそれぞれ持っているのはコンテンツを作るうえで強みになりますね」と、コンテンツ制作担当の小野さんもバスガイドさんたちの協力に、心強い思いをしていると言う。

ほかのコンテンツプロバイダーが「音声」でどのようなコンテンツを作ればいい

「はとバス東京案内」のコールフロー



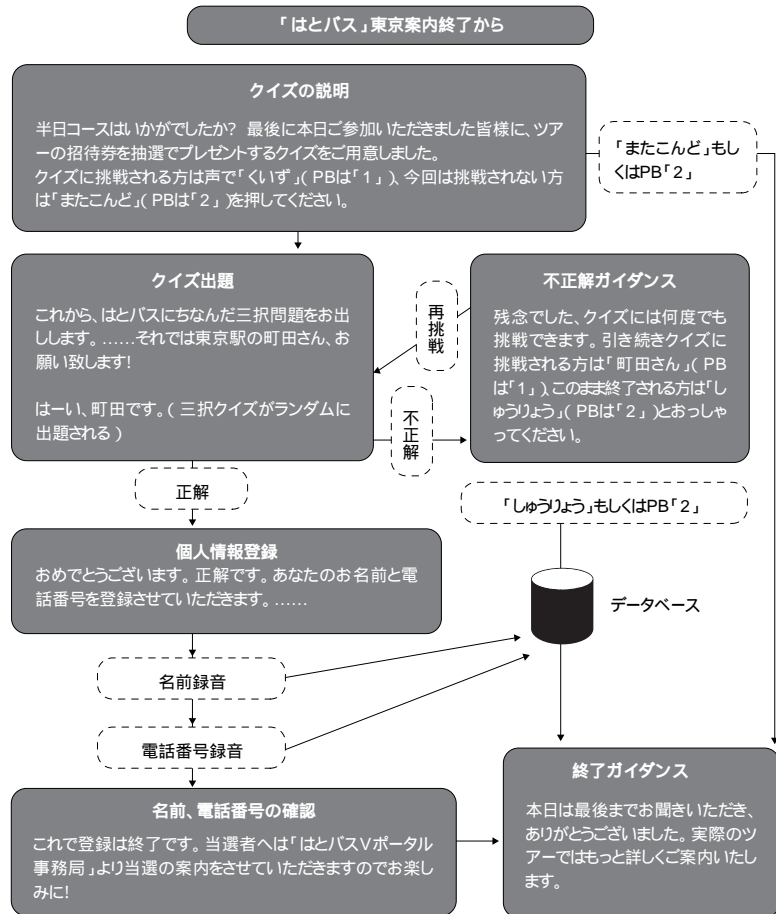
のか悩んでいるのを尻目に、すでに豊富なソフトを抱え、それをどうすればおもしろく演出できるかというノウハウを普段の事業を通して蓄積している。これこそが、同社のコンテンツの人気の秘密だろう。

Vポータルを社員教育へも応用

エンターテインメントとして十分におもしろい「はとバス東京案内」だが、同社では、このVポータルコンテンツを、ただバスツアーのバーチャル体験ができるものにとどめておくつもりはないようだ。「体が不自由などの理由で、東京観光に来たくても来られない方が、少しでも旅の気分を味わえるようなものになるといいですね」というのは広報担当の小林未樹さん。操作ガイドの音声を担当しているバスガイド浅賀理江さんも「昔、はとバスに乗ったんだけど、もう東京に出て行けないという方がいるんです。Vポータルがあれば、そんな人たちにも私たちの声をもう一度聞いてもらえますね」とVポータルがハンディキャップを背負った人をサポートするツールになるとうれしそうに話していた。

さらに、今後はVポータルを社内教育にも役立てる方向で考えている。新たに入社する新人ガイドが先輩ガイドはどのようにガイドをしているのか、Vポータルの音声を聞いて勉強させ、業務に備える参考に

はとバスツアーが当たるクイズのコールフロー



なればと計画している。「実は、Vポータルコンテンツの企画を出したとき、はとバスの命でもあるバスガイドのテクニックを誰でも聞ける状態にするのはいかがなもの

か、という反対も想定されるんです。その反対意見を抑えるにも、この“社員教育にも役立つ”という提案をしてみました」と笑い話をしてくれた。

そのほかにも「バスガイドは150人以上いるので、『おいしいもの担当の さん』『泣ける話担当の さん』など、それぞれが得意分野で、バスガイドがネットアイドル化していけばおもしろい（案内ガイダンス担当バスガイド町田寿美子さん）、「はとバスのミニカーなど、意外と“はとバスグッズ”は人気があるのです。そういうコレクターやマニアのコミュニティーになるコンテンツだといいかも」などなど、アイデアはつきない。

現在、東京のバーチャルバスツアーとなっている「はとバス東京案内」だが、今後バスガイドさんから奇抜なアイデアが出てきて、どんなコンテンツに育っていくのか楽しみにしてほしい。



本物のバスガイド浅賀さん(右)と町田さん(左)によるガイダンスが聞けるので、まるで本当にバスに乗っているような気分になれるぞ。



今日の道場破りから、コレを学びました！

ノウハウを「自分育てゲーム」に反映させる

このコーナーではすでに5社の道場破りからノウハウをパク、いやもとい、学んできたので、そろそろ具体的にそれらをどう「自分育てゲーム」に組み込んでいくかを考えたい！ 実況はおなじみ技術部 荒井がお送りします。

さて、まずは、2002年12月号で紹介した株式会社スーパーステーションのノウハウ「メディアミックス的視点をもっと重視！」をどう「自分育てゲーム」に活かすかだが.....どう活かすんじゃ？

多分、雑誌でも「自分育てゲーム」の記事を作って、そこからVポータルに導くというやり方なんだろうが、内容が「ゲーム」だけに「インターネットマガジン」で記事を作るのは難しいな。「自分育てゲーム」が「ITニュース」なんかを扱うコンテ

ンツだったらわからんでもないが、というわけでこのノウハウは保留じゃ！

次に、2003年1月号で登場してくれた株式会社タイトーのノウハウ「音声認識は1単語くらいがいい」というものだが、「自分育てゲーム」はいまの感情を喋ってもらって、その感情が携帯の待ち受け画面のイラストに反映されるというものじゃ。1単語では、ユーザーが今の感情を表すことなどできん！ ということで、このノウハウも保留.....。

新規コンテンツ制作プロジェクト発足！

くう、次に2003年2月号で紹介した、株式会社メディア工房のノウハウ「既存のコンテンツ作成ノウハウを活かしきれ！」じゃが、インターネットマガジンの既存のコンテンツ作成ノウハウと言うのは、「イ

ンターネット関連の情報の編集」だよな。うう、どうやって「自分育てゲーム」に活かせというのじゃ？ ダウンロードできる待ち受け画面をビル・ゲイツや、ニコラス・ネグロポンテなどにして、ITオタクの心を掴むかのお。編集部にはインターネット業界のアイドルの写真があるじゃろう？ でも、権利関係でダメなのか？

では、2003年3月号で紹介した株式会社コンテンツバンクさんのノウハウはどうじゃ！「質より量！とにかく新しいコンテンツをそろえよ」か.....。つまり、「自分育てゲーム」以外のコンテンツをもう1本作れってことだな。よっしゃわかった！ どちらにしろ、「自分育てゲーム」をベースにしているのは、学んだノウハウは活かしきれんのじゃ。こうなったら、新たにコンテンツをもう1本作り上げるぞ。え、誰が作るんだって？ アナタ、読者のアナタが作ってくださいよ！

- 一、メディアミックス的視点をも重視！
- 二、音声認識は1単語くらいがいい
- 三、既存のコンテンツ作成ノウハウを活かしきれ！
- 四、質より量！とにかく新しいコンテンツをそろえよ

みなさんからアイデア募集

というわけで、ついに新たなコンテンツを作ることになったインターネットマガジン編集部。これから、Vポータルを運営するNTTコミュニケーションズと会議を重ね、コンテンツ制作にかかるわけだが.....、はたして、編集部はどのようなコンテンツを作れば、Vポータル界に燦然と輝くコンテンツプロバイダーになれるのか。

今回は読者の方からもVポータルコンテンツの

アイデアを募ります。上記のノウハウを参考に「自分ならこんなコンテンツを作る！」というアイデアがあれば、下記のメールアドレスまで、アイデアの概要を書いてお送りください。これぞキラーコンテンツというものがあれば、即採用。あなたのアイデアをVポータルコンテンツにしてみせます！

im-v-portal@impress.co.jp





今日現れた道場破りたち紹介!

新しいメディアVポータル。現在、このメディアに殴り込んでいるコンテンツプロバイダーが続々現れている。このコーナーでは今後続々と殴り込んでくる“道場破り”たちを紹介していくぞ。これからVポータルを盛り上げていくのはこの人たちだ!

【株式会社エイエヌ企画】

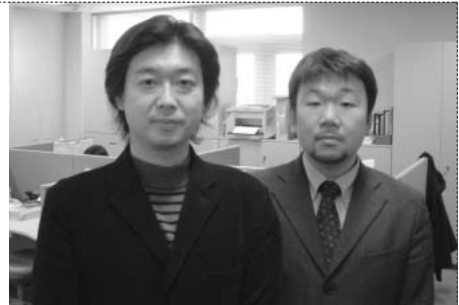
もともと広告、マーケティング関連の会社だったエイエヌ企画は、そのコネクションを活かしてテレビ番組やタレントと連動したVポータルコンテンツを提供しようとしている。「iモードで、コンテンツを立ち上げることも考えたのですが、公式コンテンツになるのが難しい。そこで、参入しやすいVポータルを選んだのです」というのは同社営業本部白浜範行さん。

この参入のしやすさに加えてもう1つVポータルに参加しようと思った原因にVポータルエディター(VPE)の存在がある。「VポータルのコンテンツはVXML言語で作る必要があり、もともとコンテンツ開発会社でない我が社では難しいと思い、しばらく参入を躊躇していたのです。しばらくするとVPEというプログラム知識のない僕でも簡単にVポータルコンテンツを制作できるツールができたので、これならいけると

思い、実際にコンテンツを作ることになったのです」とは同社情報企画本部伊藤新さん。コンテンツ制作会社ではない同社にとって、Vポータル参入にはVPEが欠かせないツールになっているのだ。

最初、さまざまなタイプのコンテンツの企画が15個ほど出てきたのだが、すでにファンを持っているコンテンツのサポート役になれるようなVポータルコンテンツを作ろうという観点から、テレビ番組に連動したものでいくことに決定したとのことだ。

「Vポータルは単体でもおもしろいものはできると思います。ただ、ほかのコンテンツと手を組んだときさらにおもしろくなるはず。そういう理由で、今回はテレビ番組連動コンテンツを作りました」と言うのは前出の伊藤さんだ。



私たちが作ってます!

エイエヌ企画の営業本部白浜範行さん(右)と情報企画本部伊藤新さん(左)。普段は広告代理店のエイエヌ企画だが、Vポータルを手がける際にはコンテンツプロバイダーになるのだ。

パソコン時代と言われるが、電話もまだまだあなどれないと語る同社。「まだ明かせませんが、実は連動しようと思っている番組は高校生あたりがメインの視聴者。そうなるとパソコンでサイトにアクセスするより、携帯電話でコンテンツにアクセスしてもらおうほうがわかりやすい。Vポータルはウェブの世界を、いろんな人に広げてくれるツールと言えますよ」と、営業本部の白浜さんは今後のVポータルの展開に期待を膨らませていた。

【株式会社イーコンテクト】

通販事業、ECビジネスなどにおける決済、物流のプラットフォーム事業を手がける同社は、抽選会のコンテンツでVポータルに殴り込んでいる。

その抽選会とは、今年のクリスマスに合わせて、コンビニエンスストア「ローソン」の全国の店舗でシールを配布、シールに書かれている13ケタのIDをVポータルで入力して当落を決めるというものだ。今回は、まずトライアル的にシール1500枚を配布して、「豪華商品が当たる。」とだけ告知し、

何が当たるのかも伏せた企画だったが、予想以上の応募率に“Vポータルはいける”という手ごたえをつかんだそう。

今後は同社の物流、決済の技術を活用して、Vポータルを用いたオンラインショッピングを計画中とのこと。実際、Vポータルを使って音声認識だけで買い物ができるとなれば画期的だ。同社はeコマースの新たな1歩を示そうとしているのだ。



私たちが作ってます!

イーコンテクトでは、本業の物流、決済の技術を活用して、Vポータルに殴り込んできているぞ。

URL <http://www.econtext.jp>

【株式会社 カナダ企画】

金田正一、張本勲など200勝以上の投手もしくは2000本安打以上の打者で組織される「名球会」に所属するプロ野球OBの生の声が聞けるVポータルコンテンツを手がけているのが株式会社カナダ企画だ。

名球会所属のプロ野球OB38名の熱いメッセージをおよそ2分ずつ聞くことができる。OB各人に任せた完全なフリートークなので、プロ野球の裏話など、コアな情報が聞ける。

すでに名球会には充実した内容のウェブサイトが存在するが、読者と名球会会員との「Q&A」やイベント

告知くらいしか更新の機会がなかった。それを補うべくこのたびVポータルを手がけることとなった。目の見えない方々に向けたチャリティーイベントなどにも積極的だった同社はVポータルを通じてより社会貢献できればと考えている。



私たちが作ってます!
同社は充実した名球会のウェブサイトも手掛けている。Vポータルではその内容を声で聞けるのだ。
URL <http://www.meikyukai.co.jp>

【兼松コミュニケーションズ株式会社】

兼松コミュニケーションズが手がけるのは「いちごの国へようこそ」というアイドル系Vポータルコンテンツだ。特種アイドルいちご姫の日記(ほぼ毎日更新する予定)や出演情報を提供していく。そのほかにも、いちごといちご姫に関するクイズが

出題され、5問連続正解すると、いちご姫の待ち受け画面がゲットできるコーナーもある。

すでにオフィシャルサイトに彼女の日記が掲載されているが、Vポータルならば生の声が聞けるなど、ファンにはうれしいものになっている。今後は、メールマガジンなどを通

して宣伝するなど、コンテンツの認知を上げて、アクセス数を増やしていく予定だ。

もともと企業向けに携帯電話の販売卸を手がける同社は将来的には企業向けのVポータルコンテンツも提供する予定だ。



私たちが作ってます!
兼松コミュニケーションズといちご姫。意外とおもしろい組み合わせだったりするのだ。
URL <http://www.kcs.ne.jp>

【松井証券株式会社】

「預株制度」など新しい試みに貪欲な姿勢を見せてきた松井証券が満を持してVポータルにて道場破りだ。

この2月から個人投資家向けに、同社が独自で作成し提供している証券ニュースを、Vポータルでも聞けるようにするのだ。

もともとあった人気Vポータルコンテンツ「株僱案内」にもリンクが貼られていて、投資家にとっては毎日欠かせない情報源となりそう。現在同社のVポータルコンテンツにアップされているのは「口座開設方法」や「新規公開公募売り出し」「立会い外分売」など

の初心者投資家からベテラン投資家まで幅広い層に向けた情報のほかに、月4回行われているセミナーの案内やキャンペーンの告知情報などだ。

将来的には株式市況の情報提供もVポータル上で行っていく予定とのことだ。



私たちが作ってます!
証券界の異端児、松井証券は証券会社として始めてVポータルに乗り込んできている。
URL <http://www.matsui.co.jp>

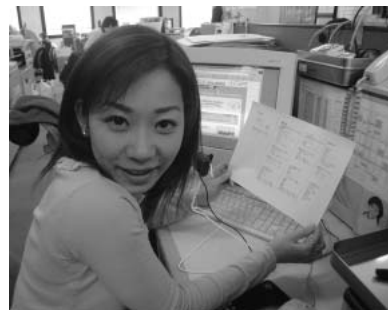
【株式会社アイデア】

雑誌「ギャルズパラダイス」を発行する同社が、同誌と連動したVポータルコンテンツ「ギャルパラ!」の提供を開始した。

同コンテンツでは現役レースクイーン24人が、生声でファンに熱いメッセージを送っている。レースクイーンには熱烈なファンが多いので、更新を待ちきれない応援団が多数出現し、リピーターをも産むかもしれないと、アイデアのVポータル制作担当者は期待を膨らませている。

もともと同社はモードや、J-SKYで、レースクイーン100名以上を掲載した待ち受け画像などのコンテンツを

提供している。このコンテンツは現在、かなりのアクセス数を誇っているのだ。そのサイトの姉妹版ともいうべきこのVポータルコンテンツも同じくらいの盛り上がりが見込める。現在、東京オートサロン2003でひろったホットなメッセージを配信中。



私たちが作ってます!
人気の「ギャルズパラダイス」を手掛ける同社は、そのリソースをもとにVポータルに参入している。
URL <http://www.galsparadise.com>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp